

奥泉光

町田康 + 朝吹真理子

中村文則 + 太宰治

斎藤美奈子

キョウコナヲ

五川重機

望月旬々

米光一成 + ナカシマヨスユキ

青木淳悟

大塚真幸

円城塚

今日マチ子



【短篇小説】

Arabesque

——《ダヴィッド同盟》ノート④から

奥泉光

シューマンの楽曲の「小説性」については、前に修人が指摘した通りで、そこで修人が例にあげていたのは、《ダヴィッド同盟舞曲集》Op.6だった。クララとの結婚の舞踏会を想像して描写したという曲集には、曲ごとにフロレスタンないしオイゼビウスの署名が楽譜に付されている。音楽による描写そのものはバロック時代からあるけれど、描写に「語り手」を設定する、なんてことをしたのはシューマンだけで、というのが修人の指摘で、僕も全く同感だ。

シューマンはピアノの詩人などと呼ばれるが、それでいうならシューマンはピアノの小説家だ。ほかにシューマンの「小説

¥0

性」についていまままで例にあがったのは、《ノヴェレット》Op.21、《謝肉祭》Op.9、《ウィーンの謝肉祭の道化》Op.26 などだけれど、ここでは別の例をとって考えてみようと思う。

《詩人の恋》Op.48——。

先週の土曜日、僕は受験のときにお世話になった久住渉先生のリサイタルを上野に聴きに行った。《詩人の恋》はそのときのプログラムで、いろいろと考えることがあったのだけれど、「小説」のことはその一つだ。つまり、僕は、この歌曲の傑作に「小説」を強く感じたのだ。それを少しだけ述べてみたい。

一六の曲が集められた《詩人の恋》が、全体で一つの物語をなしていることは、むろんいうまでもない。第一曲、美しい五月に詩人は恋におち、だが失恋して、最後の一六曲、恋の苦しみを楫に収めて海に沈めようと歌うところで終わる。しかし、ここでいう「小説性」は、歌詞がストーリーを持っている、そのこととは違う。むしろシューマンの音楽に内在する問題だ。

シューマンの歌曲におけるピアノ・パートが、歌の単なる伴奏ではない自立性を持つているのはよく知られている。たとえばA[♩]の第八曲や、D[♩]の第九曲などは、ピアノ・パートだけ弾いても十分に独奏曲として通用しそうだ。いい旋律がある、それが最も効果的に美しく歌われるようピアノ譜を作る、というふうにはシューマンは発想しない。歌とピアノが対話し、絡まり合い、二頭のイルカが後になり先になりして戯れ泳ぐような形で曲を作るのがシューマンのやり方だ。人間の歌声というのは圧倒的な強さがあるわけだけれど、ときにピアノが歌を押しつけて、自分を主張する場面さえある。もちろんこうした手法がすぐに「小説性」と結びつくわけではないけれど、いろいろな企みの前提になるのは間違いない。

企み——。実際、この言葉くらい作曲家シューマンにふさわしい言葉はないだろう。最近、僕はある作家の書いた本を読んだのだが、小説というのは企みを凝らすところに本質があると、その人は主張していた。《詩人の恋》が——《詩人

の恋》に限ったことではないけれど——隅々まで企みに満ちているのはいまでもない。ここでは一つだけ、終曲をあげておこう。というか、僕が今回、シューマンの「小説性」についてあらためて考えたのは、この終曲を聴いてなのだ。

ここでやや唐突に転調するけれど、夏目漱石の『坊っちゃん』を読んだことが諸君はあるだろうか。これを僕は一年生の夏休みに課題で読んだのだが、休み明けに現国の水原さんがしてくれた解説が記憶に残っている。水原さんはこんなふうに解説した。漱石の『坊っちゃん』は、威勢のいい江戸っ子先生が大活躍する痛快小説のように見えるけれど、よく読んでみると、主人公はとても淋しい、孤独な人間であり、だからこそ主人公を無条件に愛してくれる「清」の存在が光る、一種の恋愛小説なのである——。

そんなふうには全然読んでいなかったから、僕はだいぶびっくりして、なるほどと頷きもしたのだけれど、そのとき水原さんは、小説のラストについてもこんなことをいったのだ。すなわち、小説は最後、赤シャツと野ダイコに卵をぶつけた主人公が、松山から東京へ戻ったところで終わるが、そこで坊っちゃんは、「清の事を話すのを忘れていた」という形で、ほんのついでのように、清について短く語る。坊っちゃんと再会した清の涙について。清との幸せな生活と、ほどない清の死について。清の墓について。本筋が語られ終えたあとに短い後日談的なエピソードが付けられるのは、小説ではよくある技法であるが、『坊っちゃん』の場合は、短い付加的なエピソードに、語り手である坊っちゃんの最も大切な事柄が、深い哀切の思いが、さりげない仕方でも込められている——そんな話だった。

ここで私は《詩人の恋》のことを考える。終曲の歌が終わる。その後には一五小節の後奏がある。これは歌曲としては破格に長い後奏なわけだけれど、つまりこれが「短い後日談的なエピソード」の印象を与えるのだ。こうした書き方はたしかに小説的だと思ってしまう。しかもこの後奏は、『坊っちゃん』の場合と同様、ほんのついでのように置かれていな

がら、実は一番大切な、秘められた思いを、さりげなく語ったものではないだろうか？

終曲は4/4拍子のC[♯]mol²で書かれている。なのに後奏では急に6/4拍子のD[♯]になる。きわめて幻想的な響きのするあの箇所は、小さな独立した宇宙をなしているのだけれど、それは《詩人の恋》全一六曲の背後で、ずっと密かに響き続けていたもののように感じられはしないだろうか？

シューマンのあらゆる楽曲の「奥」に感じられる、魂の密かな囁き——風景が霧に溶け込み、なにかもが輪郭を失っていく黄昏の刻、闇に沈みいくことへの深い諦念の溜息のなかに美しく晴朗なものへの憧れが孕まれるあの感覚を、人はそこで聴き取らないだろうか？

*

《詩人の恋》の後奏。なるほど気がつかなかった！

僕は歌曲はあまり聴かないし、さらったこともないからね。べつに弁解することもないんだけど。

つまり、これは「露頭」だよ。露頭発見！ たしかにこれくらいはつきり目に見える露頭は他にないかもしれない。

深い諦念の溜息のなかに美しく晴朗なものへの憧れが孕まれるあの感覚——なんていわれると、ちよつと気取りすぎて笑っちゃうけれど、甘くて淋しい幻想に溢れたこの音楽が、シューマンという大地の、一番深いところにあつて、どこまでも果てしなく広がっていることはたしかだと思ふ。この音楽は、普段は隠れているんだけど、ところどころで地表に露出している。一つの場所が《詩人の恋》の終曲の後奏。だったら他にはどこにあるだろうか？

凄くはつきりした露頭が一つあるよね。そう、あそこだ。ピアノコンチェルトの第一楽章。展開部の冒頭、6/4拍子のAndante espressivo。あの美しい、本当に美しい、真に幻想的な——幻想的という言葉は僕はあまり好きじゃないが

——あの楽節。

もちろん気がついていてと思うけれど、《詩人の恋》終曲の後奏も6/4拍子、付された演奏記号がやはり *Andante espressivo*。つまりシューマンは、この二つのものが、同じ地層に属してつながっていることを、はっきり示しているんだ！

もつとも、記譜のうえのつながりだけが同じ地層を示すわけじゃない。調やテンポやリズムが全然違っている、同じ地層の露頭だと分かったところはいっぱいある。

たとえば、《アラバスク》なんてどうだろう？ 小さくて目立たない曲だけれど、あそこにも露頭が覗いているんじゃないかな？

*

《アラバスク》Op.18。

一九三八年から三九年にかけてのウィーン滞在中、シューマンはいくつものピアノ曲を書いた。洗練されたウィーン趣味の漂うこれらの曲は、ピアノ音楽の主な「消費者」であるウィーンの女性たちを意識したものが、なかでも「弱々しく御婦人向け」とシューマン本人が評した曲が二つあり、一つが《花の曲》Op.19、もう一つが《アラバスク》である。

アラバスクは、もともとはイスラム美術の、幾何学文様が反復する様式をいうらしいが、同じ形の付点八分と一六分音符の反復のなかで曲作りがなされているところに、シューマンがこのタイトルを付した理由はあるのだろう。もつとも、同じリズムの執拗な反復というのは、ほとんど体質ともいうべきシューマンの特徴であり、その意味からすると、シューマンのピアノ曲全体をアラバスクとみなすことも可能かもしれない。

Leicht und zart (かるく、やわらかく)と表記のある *C-dur* の主部のあいだに、*Minor I* と *Minor II* がはさまるロンドふうの構成をとる。中間部はそれぞれ *E-moll* と *A-moll* で書

かれているけれど、*C-dur* の調性でありながら主部の持つ感傷的な翳り、それが幾分濃くなるだけで、主部の色合いからは逸脱せず、だから全体は淡い単色で描かれた印象が残る。朝の光のなかでたちまち溶け消えてしまう夢のように、短く、儂い曲であるが、ここにも「小説的」な企みははっきり見られる。

Minor II が終わっての、三回目の主部。実際にこの曲を聴いたり演奏したりすると、三回目の主部が終わったところで曲が閉じられてもよい感じがするだろう。主部のおしまいにリタルダンドがあるので、いよいよ終結感は強くなる。ところが、そのあとに、一六小節の不思議なコーダが続く。この結尾部がまさに「短い後日談的エピソード」だ。コーダは調性こそ *C-dur* で変わらぬものの、主部とはテンポを変えて、*Lento* の指示が付き、非常に独立した印象を与える。そうしてここにも *espressivo* の表情記号！

修人のいうように、シューマンの大地深くで連続している地層が、ここでも「露頭」となって見えているのだ！ 届かぬところに在る何者かへ囁きかける、諦念と憧憬が一つになった、暗い熱を帯びた感情の地層。それがここで露わになっているのだ！

*

《アラバスク》は素晴らしい曲だ！ 上品で、情感ゆたかで、やさしくて、淋しくて。京都あたりにある日本の庭園は一つの小宇宙だそうだけれど、《アラバスク》もそんな感じがする。僕もちょっと勉強——というほどじゃないが——してみただけれど、アラバスクというのは、イスラムの宗教世界では、宇宙を表すものらしいからね。

それで露頭なんだけれど、たしかにあのコーダは露頭だよ。けれど、《アラバスク》にはもう一カ所露頭がある。*Minor I* のおしまいのところ、*Ruhiger* と指示のある *B-dur* ではじまる一六小節。リタルダンドが立て続けに出てくる連

結部のところだ。あそこでも地層は何気なく顔を覗かせている。コーダの露頭を先取りするかのよう。

だから、この曲を聴く人は、コーダまできたとき、あれっ、これは少し前にどこかで見た風景だったんじゃないかと、懐かしく思い出す——というほどはつきりはしないかもしれないけれど、なにか不思議な気持ちでコーダの響きを耳に入れることになる。小さいけれど、愉しくて、気持ちがよくて、ときに人を驚かしたり、ときに瞑想に誘ったりする、そんな散歩路を設計する庭師(?) みたいに、シューマンはお話を工夫して作っているんだね。それを「小説的」と呼んでいいのかどうか、僕にはよく分からないけれど。

ところで、僕が《アラバスク》を新たに発見したのは、一つの演奏がきっかけだ。それはホロピッツのでもポリーニのでもない。Sの演奏——というと、みんな驚くと思うけれど、本当の話だ。

Sはピアノが弾ける。幼稚園の頃にはじめて、中学三年まで習っていたというから、ちよつとびっくりだ。高校では、美術部に入ってピアノはやめてしまったが、今年になってレッスンを再開したそうだ。もちろん僕たち「ダヴィッド同盟」の影響なんだろう。Sは秘密にしていたらしいが、僕は偶然に聴く機会があった。

先週の日曜日だ。僕は午前中にレッスンがあって、朝から出かけていた。ところが、行ってみたら先生の都合でキャンセルになって家に戻った。すると、Sが来ていた。そのことは玄関の靴ですぐに分かったんだけど、部屋でピアノが鳴っていたから驚いた。家に入ったとき、演奏はすでにはじまっていた、僕は、ただいまとも何ともいわずに玄関扉を開けたから、二階のSは気がつかなかったんだろう。

曲は《アラバスク》だ。「音楽室」は防音になってはいるけれど、家のなかには音は漏れる。しかもこのときは部屋の戸が開いていたから、はっきり音は聴き取れた。僕は階段の途中に立って音楽を聴いた。音楽——。そう、実際にそれは、音楽と呼んでいいものだったんだ！

決してうまくはない。指定よりひどく遅いテンポはいいとして、短前打音や付点のリズムは、電池の切れかけたオモチャよろしくぎくしゃくして、まるで不正確。ミスタッチも駆け回る鼠の子みたいにそこらじゅうにある。つまりは素人のへたくそな演奏そのもの。なのに僕は、その音にひきつけられた。最初は、僕の部屋のピアノを誰かが弾いている、そのことに単純に驚いたからだだったかもしれない。けれども、そのうちに僕は、本気で音楽を聴く態勢になって、二階から届いてくる音に耳を傾けた。

曲はちょうど二回目の主部が終わって、Minore IIに進むところだった。そこで僕はとうとう笑い出した。あまりにも演奏がヘンテコだったから。でも僕は、声を出さずに笑いながら、不思議な感動を覚えていた。たどたどしく追われる音符の列が、それでもたしかにシューマンの音楽を伝えてくるからだ。いや、滑らかじゃないからこそ、かえって音楽の輪郭がくつきりと見えたといえるのかもしれない。それに、思わず笑ってしまうというの、悪いことじゃないだろうか？ 少なくとも顔をしかめたり、怒ったりするよりはいいはずだよ。

短いMinore IIが終わって、再び主部に戻ってきたとき、僕は足音を立てないように気を付けながら、階段を上って、開いたままの戸口から室をそと覗いてみた。上蓋を少しだけ開けたピアノに向かっているのは——Sだ。玄関の、女物のなにはばかどかい靴からSだとは思ったけれど、鍵盤に向かうSを見て、あらためて僕は驚いた。こちらからはSの横向きの顔が見えた。その顔はたしかにSのものなんだけれど、別人に思えた。Sは美人じゃない。けれども、このとき、ちよつとつり上がった目を楽譜に据えたSの横顔は、窓からさす春の光を浴びて、古代ローマかどこかの女の白い像みたいだった。

演奏に懸命なSは僕には気がつかない様子だった。やがて曲はコーダへ、あの露頭に進んだ。そこをSはLentoの指示をはるかに超えて、遅く弾いた。一音一音響きを確認するよ

うに。いまにも停まってしまうような速度で。それはきつとSが音符を十分に把握していないせいだったろう。けれども僕は、たどたどしい、亀の歩みみたいな音の列に、祭壇に跪いて祈る人の気持ちに似たものを感じていた。それはつまり、音楽への祈りだ。「諦念と憧憬が一つに合わさった、遠い何者かへの祈り」だ。Sはたしかに祈っていた。手の届かないものに深く憧れていた。そういうふうには見えなかった。そういうふうには僕には聴こえた。《アラベスク》のコーダが、シューマンの大地に眠る神秘の地層の露頭だと僕が知ったのはこのときだ。

演奏が終わってすぐ僕は室へ入った。「なにを勝手にピアノを弾いてるんだ！」と僕はいった。乱暴な口調になったのは——嫉妬のせいだったと思う。妙に思われるかもしれないけれど、あのとときの気持ちは嫉妬というのが一番近い気がする。あんなふうには僕には祈れない。そう思った。自分は見離されている。なぜだかそういうふうにも感じていた。

僕の剣幕にSは驚いて、目をフクロウみたいに大きくしたけれど、すぐに、いままで一度も見せたことのない、おとなびた静かな表情で、ピアノ椅子に座ったまま、まっすぐ僕を見詰めてきた。森の奥の、人気がない沼みたいな灰色の目に、自分の姿が小さく映っているのを僕は見た。

〈了〉

奥泉光 Okuzumi Hikaru

56年生。美的ないしは思弁的な純文学作品と、壮大なミステリーやエンターテインメント作品を行き来し、フルート演奏や漫談もこなす驚異の小説家。最新作『シューマンの指』はその両方をあわせもち、ハラハラさせつつ耽読を誘い、最後にはあつと驚かせる最高傑作。本編はそのスピンオフである。

講談社◆話題の文芸書

その旅は、
人間の果てへ。

2022年のクリスマスイブ、ハワイの海底で、
グレゴリオ聖歌を繰り返し歌う1400歳のザトウクジラが発見された……。
そして100年後の日本、不老不死の遺伝子を巡り、
少年の冒険の旅が始まる。

歌ラクワラ

5年ぶり長篇小説 村上龍



定価各1,680円(税込)
(上)ISBN978-4-06-216595-2
(下)ISBN978-4-06-216596-9

講談社 〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21

【対談】

町田康 + 朝吹真理子

「あけの あからない」 を読む

若手小説家や批評家、文芸編集者らによる読書会「シミロウ」が公開イベントを行います。ホスト・ゲストに課題図書を選んでもらい、お客さんといっしょに語り合おうというもの。
第1回ゲストの町田さんは安部公房「無関係な死」「なわ」を、ホストの朝吹さんは『宇治拾遺物語』より9篇を選書。ここではイベントに先立ち、ふたりが課題図書をどう読んだかを語ってもらいました。
※イベントの詳細は、対談末尾をご覧ください。

町田 今月はめちゃくちゃ忙しいんですよ。
朝吹 新しい二本を二冊も出されたばかりですよもんね。
町田 いや、焼きものをするために美濃に行っ、茶碗つくつり。

朝吹 焼きもの？(笑) 昔からお好きなんですか？
町田 ぜんぜん。もう偶然です。それから読まなきゃいけないもめちゃくちゃ多くて。でも朝吹さんが選んでくれた『宇治拾遺物語』はたのしんで読めました。

朝吹 わあい、嬉しい。気に入っていただけだと思います！
町田 これを選んだのはなんでだったんですか？

朝吹 町田さんの小説と近いものを感じたんです。中世や近世には、因果律が抜け落ちている話がありますよね。人間が生きていくことの無意味さとか滑稽さを、フュニッショナルな感情や情緒にまみれずに、そのまま書くのがおもしろくて。町田さんの作品を、もし中世や近世のひとたちが読んだら「こつこつ」の音を求めていたんだ」と言っ、いやないかと思っただけです。

町田 まったくそのとおりのおもしろさを感じました。ほくは「わけのわからなさ」とか「内面のなご」というのがすごく好きなんです。簡単に言ってしまうと、「なんでそんなことするの？」ってことですね。

朝吹 そう、行動の意味がわからない。
町田 中世のひとだからか離れていて理解できないのかという、そんなことはない。

朝吹 ーこの放屁の話(巻三の二「藤大納言忠家、物いふ女放屁の事」)なんて、こまやかな書きぶりだけれど、書かれてくる出来事は、とんちんかんで。色事の最後に女の放屁を目の当たりにして出家しようと思っただけで、思っただけで、そんなことでも出家しようと思っただけで自分の心の動きに憤然とするもつ、「ここからなにを讀みとったらいいのかが。」

町田 まったくわかりません。
朝吹 そこが讀みものとして心地よくて。でもするのには、放屁なんて絶対おもしろいに決まってる。(笑)

町田 放屁で出家するー出家から見てもふざけてるし、放屁から見てもふざけてる。(笑)。出家を注意してちょっと歩いて「やめよう」と思うところ、こわって、すく人間ですよね。ほくの小説を読んだら、「特別に秀った人間を書いている」とよく言われるんですけど、ほく自身はそんなつもりはなくて、人間の心の動きを「つう」に写す、こつこつって思っただけです。

朝吹 因果律の抜け落ちている様と「伴大納言の事」(巻一の四)と、「出雲寺別当、父の鯨になったるを知りながら殺して食ふ事」(巻三の八)があります。
町田 両方とも予言的な夢の話ですね。

朝吹 「伴大納言」は、いずれ応天門を放火することになる予兆をした段階ですけど、理由や経緯は抜け落ちて、結果だけがあるわけですね。ひじょうに不気味で忘れたい書き方です。これは典型的ですけど、因果律が抜け落ちているときの説明として、中近世のひとは、夢や怪異を使うんですね。

町田 中世には、夢とか怪異がもつこつこつものとしてあったんじゃないですか？

朝吹 地続きであったと。因果を説明できないことって、たぶん中世のひとにしても、われわれにしても、怖いことですよ。寄る辺がないわけだから、それを理解可能なかたちに落としこむために、夢とか怪異を、むりやり使っている気がするんですよ。

町田 図式に入れちゃった。

朝吹 神隠しにしても、実際は簡引きしたのだとしても、神隠しという嘘が共同体のなかで共有され、真として機能する。アリバイ工作としての夢や怪異が、現代のわれわれが読んだときに、おもしろくも思います。でも、新作『人間小唄』は夢や怪異を使わないで、因果律が抜け落ちたものを書いていきますけれど、どうしてなんですか？

町田 誠実に話を進めていくと、どうしてもそうなるんですよ。落としこむ作業というのは、かたちを整えて、心あたたまる方向にもっていく作業だと思うんです。因果律とか、夢や怪異じゃなくても、愛とか優しさでもいい。(笑)。鯨の話で言うと、親父が生まれ変わったという鯨を食べてしまっただけですが、その結果「男が減る」と書く、一応、納得がいくんですよ。

朝吹 話として受け入れやすくなりますよね。

町田 そこに至る道筋はやっばりおかし。ふつ、そんな鯨は食べないだろう。(笑)

朝吹 夢にお父さんが出てきて、鯨になってしまっただけに放してくれと頼む。目が醒めて、そのことをすつと妻に話していたのに、実際に何日かあつ、夢のお父さんが出てきたら上覚という男はもうそんなことを忘れちゃっているんですよ。

町田 あれ、忘れてないですよ。(笑)

朝吹 「思ひもあへず」で、解釈がわかるんですよ。大きな

鯨を見たとき「上覚思ひもあへず」というのが、鯨はお父さんだつてわかってるのに、食欲に負けて、「そんなの知りませんよ」って素振りをしたのか……。

町田 「魚の大にたのしげなるにふけり」というのは、うれしくなっちゃったことですよ。

朝吹 そう解釈をするか、すつかり失念してしまっているところかで「思ひもあへず」の訳が変わる。「日本古典文学全集」だと、「思ひもつかず」と訳しています。これだと「上覚は忘れていた」ことになりまよね。でも、話としておもしろいのは……。

町田 これは完全にわかっていて、「夢は、だつて夢じゃない、それはそれ」ということだと思っ、「こつこつこつこつ多いじゃないですか。「大丈夫大丈夫、お父さんもきつとつれいよ」って(笑)。

朝吹 『宇治拾遺』は、わからないことを、わからずとして書いていないのが好きです。でも「わからないことをわからずとして書く」のは、とても難しいですよ。

町田 ほくは『人間小唄』を書いているときに、そのへん開眼したんです。読んでいる人に「なんで」と言わせたい、自分にも聞かないで、ぶつ飛んだまま押し進め。

朝吹 いままでの町田さんの作品も、因果律が抜け落ちて、嘘と真がぐるぐる反転しつづけて、何が嘘で何が真かわからなくなつて、最終的には、自分の死体を背負っているような状態に至るまで、因果律の抜け落ちた世界をささえるためのわけのわからないものができましたよね。くにくにくい、であるとか、謎を謎としておくところできる、なんらかの媒介があつたと思います。でも、『人間小唄』は無媒介に、底の抜けている世界であると。無媒介にわからなさが読み手にやってくる。世界がわからなまま、次の行のわからなさに繋がる体験を、最初から最後までして……。

町田 でも、次の行はわかるでしょう。

朝吹 そう。読み終わって本を閉じたときに、わからないことをわからないままわかる。(笑) わからない感覚だけをほつきりと内臓でうけとめる。「ぶつこつした右がお腹にはいつてくる。わからな」といつ石を呑み込む」ことができる感じがするんですよ。そういう読書ができるのは、不気味、しあわせです。

町田 それはやっぱり感情だと思っ。ほく自身が、一〇代からすつともつていた感情なんです。因果律とか、説明のつくものと、「こ」の前提で考えよう」とされていく決まりに對

して、「絶対に嘘だ」というかたくなな思いこみがあって。「じつじつごです」と説明されると、むらむらと腹が立つんです。だからそれを、きつち外していつているんだと思えます。

朝吹 町田さんが「無関係な死」を選んだところが良かったとき、意外な気がしたんですよ。

町田 じつは安部公房が好きで、中高生のときによく読んでいたんです。それを完全に忘れていた(笑)。「影響を受けた作家は誰ですか?」とか訊かれるでしょう。筒井康隆さんとかいろいろ挙げていたんですけど……。

朝吹 だって聞いたことがなかったもの。

町田 今回、短篇を選ぶときに、井伏鱒二とか、梅崎春生とかを考えたんです。でも、なんか似た感じがして、「絶対にこれ」というのが思い浮かばなかったんです。そうしたら安部公房を思い出した。

朝吹 安部公房は、いま挙げた流れのなかでいい具合に浮いていますよね。

町田 この浮き具合をやったやつかなと思ったわけです。ただ、短篇を再読して思ったのは、あんまおもしろくない(笑)。小説としてあまりに論理的すぎる。

朝吹 ああ、やっぱり。同じ印象です。

町田 かたがわかってしまうと、小説を読むというよりはどっしり考えながら読んでる感じがする。ただ、ところどころに気持ちいい言葉がある。安部公房は長篇のほうがいいですね。

朝吹 『カンガルー・ノート』の、足からカイルレ大根が生えるとか、意味不明なところ好きだなと思うんです。反対に、「S・カルマ氏の犯罪」とかは、ちょっと忌避したくなる。安部公房も情緒に寄りかからないのは好きですが、いかんせん論理的な説明が多すぎて。

町田 正確に書かないと気が済まないんでしょうね。**朝吹** 設計図を説明書きだけで読んでる感じ(笑)。かえって混乱するから図にしてよ、って思います。乱暴にあらずしを説明すると、ある日、Aなにかがアパートの自室に戻るよ、見知らぬ他人の死体が横たわっている。動転したAは通報することもできずに、死体を観察したり、自分が疑われるんじゃないかと怯えたりするうちに、泥沼にはまっていくなすまね。

町田 これは論理的に順を追ってやっているんです。死体を見つけて、なぜAがすぐ警察に行かなかったかの説明が

延々あり、今度はどういふ死体を説明する。

朝吹 で、死臭が漂ってきて、となるんですよ。

町田 Aには身に覚えがない。ところが、徐々に自分と死体が無関係であることが不確実には揺らいでくるんですね。それで、だんだんと罪に追いつまってくる。短篇集全体に言えることですが、自分自身の閉じた中の世界に対して、外の世界はつねに不穏な空気に満ちている。貧しかったり、食糧不足とは書いてないんだけどそんな様子があったり、外の世界が自分を追いつめる気がずっとあって、その気配との戦いという話の前提としてあるわけですね。そのなかでも「無関係な死」を選んだのは、それがいちばん曖昧なかつち出ていたから。

朝吹 不穏が曖昧。

町田 『粗忽監屋』の「死んでるのはおれだけど、死んでるおれを背負ってるおれは誰だ?」というのが、「無関係な死」にも当てはまる。「この死体は自分である」と読むこともできるわけ。あるいは、もっと抽象的な「死」というものを「このAが妄想として意識しているだけで、追いつまていく」という狂気とも読める。Aはなんどかして、自分が論理的に死を回避しようとしているんだけれど、失敗していつ。

朝吹 ほんと死と関係していく。たしかに貧しさが、部屋の写真から伝わって来ますけれど、すごく気になったのは、「じいでベッドの下もたしかめてみる。ほうろう引きの便器の白い肌、ぼんやり光って見えていた」という箇所。どっしり状態の家なのかしら。

町田 トイレが各戸にないか、アパート自体にないとか。これが書かれたのは昭和三十六年だから、戦後すぐに建ったような建築だとありえるんじゃないですか。

朝吹 そうか。この便器が引っかかっていたんです。無理矢理ですけれど、これを違わうかたで読もうとしたときに、じつは死体のほうが部屋の主で、トイレまへ行けずに簡易便器を使うひとなのかと。

町田 寝たきりみたいなひとがいて。**朝吹** そう。死体の描写に「小皺だらけの首筋」で、「血の気がなくなった、しなびた耳」とあって、これは死んでからだいぶ経っているんじゃないかと、そう描写される状態の人をAが殺したとも読めるかもしれない。だから、Aは死から無関係になると、知らない振りをしているだけ。

町田 「客が来ていた」の客はAのほうだったという。**朝吹** ふつうに読むと、論理的な、家の設計図的な描写が

いたのかをヒントに、違わうかたでAと死体の関係を結ぼうとすると、じつは死体の家にいたんじゃないかなって思ったり。

朝吹 「無関係な死」の「西陽をうけて、ミカン色に輝いて

いる」という表現が、印象に残ったんです。情緒に寄りかからずに論理だけで、ト書きのように伝えたいことを率直に書いていくなかで、「ミカン色」という言葉が、彼が生きてきた何年間かの生の部分としてぽつと出ちゃう。

町田 どうも「ミカン色」に輝いているからね、よろしく……って演出されている感じがするんだよね。

朝吹 そんな照明当てようよ(笑)。

町田 ふつう小説には、照明係なんていないことになるわけでしょう。小説のなかの世界だけを、「無関係な死」であれば、アパートの一室のことだけを書くけど、でも安部公房は、舞台裏に説明している感じがある。

朝吹 読み手は羨しむために、照明や音響、大道具や小道具を兼ねて小屋をつくらなきゃいけないわけですね。普段読むときは、その世界に入る感じで、ずっと読むんですけど、

町田 「世界がセツトかもしない」なんて疑われないよね。**朝吹** 不思議なのが、主人公のAと書き手の視点の距離感なんです。「魚の凶案をちらした、枯葉色の安物のカーテン」という文にも、「安物の」と価値判断が入っている。もちろん読者が喚起するためなんだけれど、Aがそれとなく感じていたのか、箱庭をじつと見ている書き手が感じているのか。

町田 なにしろAですからね。

朝吹 しかも「Aなにか」。誰でもない感じで、さびらにあやしい。

町田 「無関係な死」は、死というものが無関係では絶対あり得ないと示すという戦略があったと思うんです。「その死が、誰の死なのかを確定できないで」。なんであなたがたと無縁と言えるわけ」って。

朝吹 わたしは、死という概念が、彼とは無縁のものであったはずなのに、死因という「因」によって、嫌でも関係がずぶずぶ深くなってしまふからこそ、「無関係な死」というタイトルなのかと思っていました。逆説的に、関係が密になっ

ていくことが、とても不条理な感じがしたんです。**町田** そうそう、不条理。予期していなかったことだし、まったく心当たりのないことなのに、自分が背負い込まねばな

らない。だから必死になって、自分と無関係なことじしようとするわけでしょう。「その必要はないのに、しなげばいけない」というのは不条理きまりない。けれど、死を無関係にしようとする(に)後ろめたさを感じたりもする。心理的な揺れもある。やればやるほど自分が死んでいくわけですね。

朝吹 しかも不思議なのは、血痕の付いた敷物を真っ白になるまで洗うのですけれど、いったい何時間経っているのか。

町田 時間の追い詰めかたも論理的で、「日暮れるまでにやらなきゃ」とはじまって、その後も帰宅する人の足音とかいろいろな角度から執拗に描く。すっかり日が沈んで灯りをつけた瞬間、それまで止まっていると思っていた時間が急にどわあって進む。ただ、死体だけが止まっている。そのやりかたも、理屈っぽいというか。

朝吹 がっちり組み上げている。

町田 時間が過ぎていくことやタイムリミットも、結局は死に繋がる。これは五〇代のひとが読むのも、二〇代のひとが読むのどでは印象が違わかもね。もっ先が見えているひとと、またかなりあるひと(笑)。これを選んだのは、ほかとは違って重い、うっとうしいから。

朝吹 不穏だし、こっこのほうがわからない不条理さのなかにありますよね。

町田 安部公房は一時期、共産党に入っていたりして、価値とか生産とかの気配がありますよね。工場の話とか食料の話あと官憲に追い詰められる話とか、精神病院から逃げる話も多い。そのなかで、「無関係な死」は身体的であり、人間の有限の命をじつととしたところで考えているところがあるんですね。

朝吹 死体を動かさうとして、まず自分の体を使ってためしみてたか(笑)。

町田 秒数測って練習したりしてね。それから、必死で血を拭き取るんだけれど、あとで血痕こそが自分の無罪を証明するものだと思いついて、「じまったあー」って(笑)。

朝吹 それなのに、この書きかたは論理的提示だから笑う余地がない。読んだあとに引いて考えを、すくくおもしろい話なのに。

町田 書きまうによつてはね。

朝吹 不穏さと、責め立てられたい見られたりしている感覚の苦しさがひたひたとあって。

『桐島、部活やめるってよ』で
衝撃的デビュー。

平成生まれの大型新人
待望の第2作!!

感動の
スポーツ
青春小説

チア男子!!

朝井リョウ

人を応援することで主役になれる、
世界で唯一のスポーツがある——。
柔道をやめた晴希と一馬は、
男子のみの新チームで大学
チアリーディング界に旋風を起こす!

好評発売中●定価1,575円



ハルたちと一緒に
笑って泣いて
飛んで下ろせ!!
朝井リョウ

(あさいりょう)●1989年生まれ。
岐阜県出身。早稲田大学文化構想
学部在学中。『桐島、部活やめるってよ』
で、第22回小説すばる新人賞を受賞し
デビュー。12万部を超えるベストセラー
となり話題を呼ぶ。

★朝井リョウ × 早大男子チア“焼肉座談会”公開!

試し読みもできます。▶『チア男子!!』特設サイト
チア男子 集英社 検索 <http://www.shueisha.co.jp/cheer-boy/>

著者写真/©SAYURI SUZUKI イラスト/曾根愛
〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10 **集英社**

町田 なんて笑えないんでしょうかね。死体をあつかう話だと、土方落語の「算段の平兵衛」というのがあるんですよ。

朝吹 あ、なんとなく聞いたことがあります。

町田 庄屋が、妻に叱られるのが嫌になって、妻を平兵衛のころへ嫁にやるんです。平兵衛は遊んでばかりで働かないから、お金に行き詰まるんですね。彼は算段という、無理なことを考えて円滑にする相談屋みたいなことをしているんですが、どうしようかと考える。そこで庄屋を呼んで、嫁に色仕掛けをさせる。庄屋をいい気にさせたところに現れて、おどして金を強請るはずが、コンッって叩いたら庄屋は死んじゃった。このままじゃ殺人罪になってしまうので、死体を庄屋の家に運ぶ。戸の前で、庄屋の声色を使って開けてくれと言つと、庄屋の妻は「また女のところに行ってたんでしょ」と怒っている。平兵衛は「開けてくれないんだったら、もう首吊って死ぬ」と言つて、庄屋の死体を言明らす。こんどは妻が困り果てて、平兵衛のとつとへ相談に行くものだから、つぎはその死体を隣村のトナリに押しつけて……と死体が、何度も何度も殺される。

朝吹 ひどい話(笑)。じつは目撃者がいたんでしたっけ?

町田 そう、最後は粗雑に終わるんですけど。技術に長けた落語家が演じたら、笑える話になると思うんですが、それを安部公房が書くとなると……。

朝吹 ものすごく不穩になりそう(笑)。じめってして、タンスの奥の、三年くらい着ていなかったタワシジャケットのにおいというか。

町田 時代性もあると思うんです。これが書かれた昭和三〇年代は、やっぱりまだ豊かじゃない、苦しい時代だから。

朝吹 「なわ」を読んでも、そが気にならないのに、「無関係な死」だと、部屋が閉じ込められているときの逼迫感がある。かつ、笑いという横から差し込む視線ももてない。素朴に不思議なのは、なぜ笑いの隙を与えなかったのか?

町田 でも安部公房って、そういう作家ですよ。絶対に隙をつくらない。緻密な論理で笑えるパターンもあるわけだけれど、「無関係な死」は笑いからもっとも遠い(笑)。

朝吹 だから、町田さんが選んだのが意外だったんです。

町田 どこが好きだったかと言つと、安部公房の小説に描かれる風景なんです。

朝吹 ミカンのなもの?

町田 この感じは思い浮かべていなかったけれど、貧乏臭さではなく、モダンな感じがしてました。安部公房の描く風景とか部屋、『燃えつきた地図』に出てくる団地は、直線的と言つのか、かっこよかったです。それが好きで読んでいた部分もあった。だから街を歩いていて、いい感じのアーバ

ートを見ると、「安部公房の小説に出てきたんだ」と思うんです。

朝吹 そうなんだ。「赤い蔭」はモダンな感じがするのにも、「無関係な死」は……。「ミカン」に輝いているのが貧乏らしいということではないんです。単品単品で要求してくる感じが、嘘くさいのかな。描かれた家具の後ろを見たら、じつは張りぼてだったというような気がするの。

町田 小説の世界って歪むじゃないですか。ひとと物の関係がどうしてもあるから。あるひとのキャラクターを表現すると思つたら、そのひとが男子学生なのか、働いている女性なのかで部屋も変わるし、そこに置いてあるお気に入りの物を描きたいですよ。でも、その描きかたってある程度は嘘になつてしまふ。安部公房は、逆にめちゃめちゃ正確に書いているから、嫌な気持ちになるんじゃないですか。

朝吹 要求が等価にあるのが怖いんです。遠近感がなくて、ぜんぶが近くに。物体、物体、物体……。

町田 それはもう安部公房の世界じゃないですか(笑)。不気味で。

朝吹 不穩な感じがする。

町田 それが安部公房ですよ。

朝吹 はい(笑)。

白熱の対談の続きは、
「早稲田文学 増刊π」と
シミログ公開読書会で!

●イベント詳細
【プログラム】第一部 町田康 + 朝吹真理子のトーク
第二部 問宮緑、坂上秋成らと行うディスカッション
【日時】2010年11月20日(土)午後3時~6時
【会場】3331 Arts Chiyoda (<http://www.3331.jp/>)
【ご予約】シミログ・ブログ (<http://shimilogue.blogspot.com/>)
※課題図書の詳細についても、上記ブログの説明をお読みください。

現代作家が選ぶ世界の名作リタインズ① 選・中村文則

トカトントン

太宰治

拝啓。

一つだけ教えて下さい。困っているのです。

私はことし二十六歳です。生れたところは、青森市の寺町です。たぶんご存じないでしょうが、寺町の清華寺の隣りに、トモヤという小さい花屋がありました。わたしはそのトモヤの次男として生れたのです。青森の中学校を出て、それから横浜の或る軍需工場の事務員になって、三年勤め、それから軍隊で四年間暮し、無条件降伏と同時に、生れた土地へ帰って来ましたが、既に家は焼かれ、父と兄と嫂と三人、その焼跡にあわれな小屋を建てて暮していました。母は、私の中学四年の時に死んだのです。

さすがに私は、その焼跡の小さい住宅にもぐり込むのは、父にも兄夫婦にも気の毒で、父や兄とも相談の上、このAという青森市から二里ほど離れた海岸の部落の三等郵便局に勤める事になったのです。この郵便局は、死んだ母の実家で、局長さんは母の兄に当たっているのです。ここに勤めてから、もうかれこれ一箇年以上になりますが、日ましに自分がくだらないものになって行くような気がして、実に困っているのです。

私があなたの小説を読みはじめたのは、横浜の軍需工場で事務員をしていた時でした。「文体」という雑誌に載っていたあなたの短い小説を読んでから、それから、あなたの作品を捜して読む癖がついて、いろいろ読んでいううちに、あなたが私の中学校の先輩であり、またあなたは中学時代に青森の寺町の豊田さんのお宅にいらしたのだと言う事を知り、胸のつぶれる思いをしました。呉服屋の豊田さんなら、私の家と同じ町内でしたから、私はよく知っているのです。先代の太左衛門さんは、

最近、どうも気分が滅入ってならない。

そんな時、元気が出る明るい本を読む健全な心は持ち合わせていないので、暗い本を読んで徹底的に浸る。大体、読めば元気になるよ！的な本を読み、「元気出た！」とか本気で言ってる奴は変態だと思っ。こんな時は太宰治がいい。低いテンションが上手く合い、浸れるのである。

太宰治の文章は本当に天才的で、短編にも優れた作品が多い。『渡り鳥』や『ア、秋』とかも好きだけれど、この『トカトントン』も秀逸である。タイトルから凄。

人生に熱意を持って関わろうとする度にトカトントンと音が聞こえ、虚無に包まれる男の話。文学史的な系譜でいうと、幻の出現のたびに人生への道が塞がれるという意味で、三島由紀夫の『金閣寺』にも影響を与えている（三島は何だかんだ太宰を気にしてる）。何かをするたび虚無に襲われるなんて、今の自分がまさにそう。さつきも電話をかけてきた編集者に、もう小説は大分出来たと堂々と嘘をついた。全然書けてないことがバレたら、逃げようと思う。どこかの場末の旅館に行き、未亡人の女将を見つけ、

駆け落ちしようと思っている。何だか最近、ヤケクソなのである。

ある作家に送られた悩み相談の手紙、という体裁の小説だけど、その作家からの返信の部分を読む度、なんとというか、ハイヒールで踏まれた気分になる。

『十指の指差すところ、十目の見るところの、いかなる弁明も成立しない醜態を、君はまだ避けているようですね』

あー……。確かに、そこまでいけば虚無は止むだろうけど……。太宰治は、そこから最終的に自殺しているのである。僕は何とか自殺しないで生きる方法が知りたいんだよと思うけど、恐らくそれは太宰の作品や生き様を参考に自分で考えろってことなんだろう。まあそうなんだが……。仕方ないので、考えてみることにする。とりあえず、小説書かないと。



中村文則

Nakamura Fumio: 77年生。作風を大幅に更新して挑んだ『捕鯊』が昨年大賞。『大評判』を評んで大江健三郎賞まで獲得した。いまイケイケの若手作家。同作と最新作『悪と仮面のルール』が大評判……。なにかこうも懸念らずにはいられないのは、ただけ願いのか、と思うとじつは笑顔の似合う好青年。

お願いして紹介状を書いていただき、あなたをおたずねしようかと思いましたが、小心者ですから、ただそれを空想してみるばかりで、実行の勇氣はありませんでした。

そのうちに私は兵隊になって、千葉県の海岸の防備にまわされ、終戦までたまたま毎日日々、穴掘りばかりやらされていましたが、それでもたまに半日でも休暇があると町へ出て、あなたの作品を捜して読みました。そうして、あなたに手紙を差上

げたくて、ペンを執つてみた事が何度あったか知れませんが、それでも、拜啓、と書いて、それから、何と書いていいのやら、別段用事は無いのだし、それに私はあなたにとつてはまるで赤の他人なのだし、ペンを持ったままひとりで当惑するばかりなのです。やがて、日本は無条件降伏という事になり、私も故郷にかえり、Aの郵便局に勤めましたが、こないだ青森へ行つたついでに、青森の本屋をのぞき、あなたの作品を捜して、そしてあなたも罹災して生れた土地の金木町に来ているという事を、あなたの作品に依つて知り、再び胸のつぶれる思いが致しました。それでも私は、あなたの御生家に突然たずねて行く勇氣は無く、いろいろ考えた末、とにかく手紙を、書きしたためる事にしたのです。こんどは私も、拜啓、と書いただけで途方にくれるような事はないのです。なぜなら、これは用事の手紙ですから。しかも火急の用事です。

教えていただきたい事があるのです。本当に、困っているのです。しかもこれは、私ひとりの問題でなく、他にもこれと似たような思いで悩んでいるひとがあるような気がします。私たちがのために教えて下さい。横浜の工場にいた時も、また軍隊にいた時も、あなたに手紙を出したいと思ひ続け、いまやつとあなたに手紙を差上げる、その最初の手紙が、このようなよろこびの少ない内容のものになろうとは、まったく、思ひも寄らない事でありました。

昭和二十年八月十五日正午に、私たちは兵舎の前の広場に整列させられて、そうして陛下みづからの御放送だという、ほとんど雑音に消されて何一つ聞きとれなかつたラジオを聞かされ、そうして、それから、若い中尉がつかつかと壇上に駆けあがって、

「聞いたか。わかつたか。日本はポツダム宣言を受諾し、降参をしたのだ。しかし、それは政治上の事だ。われわれ軍人は、あく迄も抗戦をつづけ、最後には皆ひとり残らず自決して、以大君におわびを申し上げる。自分は今もとよりそのつもりでいるのだから、皆もその覚悟をして居れ。いいか。よし。解散」そう言つて、その若い中尉は壇から降りて眼鏡をはずし、歩きながらぼたぼた涙を落しました。厳肅とは、あのような感じを言うのでしょうか。私はつつ立つたまま、あたりがもやもや

と暗くなり、どこからともなく、つめたい風が吹いて来て、そうして私のからだだが自然に地の底へ沈んで行くように感じました。

死のうと思ひました。死ぬのが本当だ、と思ひました。前方の森がいやにひっそりして、漆黒に見えて、そのてっぺんから一むれの小鳥が一つまみの胡麻粒を空中に投げたように、音もなく飛び立ちました。

ああ、その時です。背後の兵舎のほうから、誰やら金槌で釘を打つ音が、幽かに、トカントンと聞えました。それを聞いたとたん、眼から鱗が落ちるとはあんな時の感じを言うのでしょうか、悲壮も厳肅も一瞬のうちに消え、私は悪きものから離れたように、きよろりとなり、なんともどうにも白々しい気持ちで、夏の真昼の砂原を眺め見渡し、私には如何なる感慨も、何も一つも有りませんでした。

そうして私は、リュックサックにたくさんのもをつめ込んで、ぼんやり故郷に帰還しました。

あの、遠くから聞えて来た幽かな、金槌の音が、不思議なくらい綺麗に私からミラリズムの幻影を剥ぎとつてくれて、もう再び、あの悲壮らしい厳肅らしい悪夢に酔わされるなんて事は絶対に無くなつたようですが、しかしその小さい音は、私の脳髓の金的を射貫いてしまつたものか、それ以後げんざいまで続いて、私は実に異様な、いまわしい癪癪持ちみたいな男になりました。

と言つても決して、兇暴な発作などを起すというわけではありません。その反対です。何か物事に感激し、奮い立つとすると、どこからとも無く、幽かに、トカントンとあの金槌の音が聞えて来て、とたんに私はきよろりとなり、眼前の風景がまるでもう一変してしまつて、映写がふつと中絶してあとにはただ純白のスクリーンだけが残り、それをまじまじと眺めているような、何ともほかない、ばからしい気持ちになるのです。

さいしよ、私は、この郵便局に来て、さあこれからは、何でも自由に好きな勉強ができるのだ、まず一つ小説でも書いて、そうしてあなたのところへ送つて読んでいただくと思ひ、郵便局の仕事のひまひまに、軍隊生活の追憶を書いてみたのですが、大いに努力して百枚ちかく書きすすめて、いよいよ今明日

のうちに完成だという秋の夕暮、局の仕事もすんで、銭湯へ行き、お湯にあたたまりながら、今夜これから最後の章を書くにあたり、オネーギンの終章のような、あんなふうの華やかな悲しみの結び方しようか、それともゴーゴリの「喧嘩断」式の絶望の終局しようか、などひどい興奮でわくわくしながら、銭湯の高い天井からぶらさがっている裸電球の光を見上げた時、トカントン、と遠くからあの金槌の音が聞えたのです。とたんに、さつと浪がひいて、私はただ薄暗い湯槽の隅で、じゃぼじゃぼお湯を掻きまわして動いている一個の裸形の男に過ぎなくなりました。

まことにつまらない思ひで、湯槽から這い上つて、足の裏の垢など、落して銭湯の他の客たちの配給の話などに耳を傾けていました。プウキンもゴーゴリも、それはまるで外国製の歯ブラシの名前みたいな、味気ないものに思われました。銭湯を出て、橋を渡り、家へ帰つて黙々とめしを食い、それから自分の部屋に引き上げて、机の上の百枚ちかくの原稿をばらばらとめくつて見て、あまりのばかばかさに呆れ、うんざりして、破る氣力も無く、それ以後の毎日の鼻紙に致しました。それ以来、私はきよろりまで、小説らしいものは一行も書きません。

(後略)



太宰治
Dazai Osamu

一九〇九—一九四八。学生時代から非法法運動に関係し、やがて『龍門』36年発表の『晩年』等で文壇に認められ、『富嶽百景』『女生徒』などの佳作を執筆。戦後、『斜陽』でベストセラー作家となるが、『グッド・バイ』連載中に玉川上水で入水自殺。生誕百年にあたる昨年は、『ハントラの匣』『グレイの妻』が映画化されるなど、今も人気は衰えない。

引用出典…新潮文庫『グレイの妻』より

「トカントン」は、右記の新潮文庫(解説・亀井勝一郎)のほかに、『太宰治 ちくま日本文学008』(筑摩書房)／『グレイの妻・桜桃 他八篇』(岩波文庫)／『グレイの妻』(角川文庫クラシックス)／『斜陽・人間失格・桜桃・走れメロス外七篇』(文春文庫)などに、解説とともに取められています。また、作品単独は青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp/>でも読むことができます。

旧作異聞

22



『或る「小倉日記」伝』 (角川文庫)



斎藤美奈子
Saito Minko

56年生。94年、『姪姫小説』で評論活動を始める。古典とベストセラー、時事問題からマンガ、アニメまで、題材の硬軟を問わず舌鋒鋭く論じる著作には、読者の物の見方をひっくり返す「目からウロコ」が満載。『文芸春秋』『本の棚』など。

小倉(北九州市小倉北区)の観光名所といったら、やはり小倉城だろう。で、この小倉城址の一角に北九州市立松本清張記念館がある。城の中に記念館が建っちゃうのだ。松本清張は北九州が誇る大作家なのである。

『或る「小倉日記」伝』は、一九五二年の芥川賞を受賞した、松本清張四三歳の文壇デビュー作である。

物語は昭和一五年、小倉在住の田上耕作という人物から、さる文人のもとに届いた一通の手紙ではじまる。耕作は小倉時代の森鷗外について調べているという。鷗外は明治三二年から三年間、軍医として小倉にいたが、その時期の日記は失われている。ついでには自分が関係者を訪ね歩いて、その空白を埋めたいというのであった。かくして小説は田上耕作なる人物の生い立ちと、鷗外の足跡を調査する彼の一〇年におよぶ足取りを追う。

大まかな筋はそれだけだが、この小説のポイントは、田上耕作という青年の人物像だ。彼はこのように紹介される。(耕作は小学校に上ったが、口を絶えず開け放したままで、言語もはっきりしないこの子は、誰がみても白痴のように思えた。が、実際は級中のどの子よりもよくできた)

耕作の障害は脳性マヒによる運動機能障害ではなかったかと想像されるが、ともあれ頭脳明晰ながらそのような身体をもったことで、彼はことあることに好奇の目にさらされ、調査の過程でも差別を受ける。

もうひとつのポイントは、そんな耕作を不憫に思い、彼の調査に同行しさえする母ふじの存在である。母ひとり子ひとり。耕作が生き甲斐を見つけたことを喜んだ母は、息子が四一歳で病死するまで彼に寄り添い続ける。

というわけで『或る「小倉日記」伝』は「障害を抱えながら困難な調査を続けた男」と「息子を支えた偉大な母」の物語として読まれてきたのだったが、ここから話は少しややこしくなる。小倉にはじつは田上耕作という同姓同名の郷土史家がいる、実際にも軽い障害をもっていたらしいのだ。ただし、今日の段階では、実際の田上耕作と作中の「田上耕作」とは生没年も家族構成も異なり、小倉時代の鷗外の足跡を訪ねるといふ小説の根幹をなすストーリーも、作者の創作ではないかといわれている。

いまだたあたり得ない話ですすね。たとえモデルとなる人物がいても、

そこまで事実と異なるなら、ふつう、名前くらいは変えない?

ま、でも、このへんが半世紀前の「おおらかさ」だったのであろう。耕作の容貌を描写する語り手の視線にも、配慮を欠いた差別的な部分がないとはいえないが、それもまた時代の限界だったということだろう。

そのような若干の(?)問題点を除けば、短くてぶっきらぼうな作品ながら『或る「小倉日記」伝』はご当地文学としての要素も兼ね備えている。とりわけ(すぐ前は海になっていた。海は玄海灘につづく響灘だ。家には始終荒浪の音がしていた)と書かれる、耕作が育った小倉北端の博労町の雰囲気などは、幼い耕作が聞いた「伝便(でんべん) (いまでいうバイク便みたいなもの)」の鈴の音などもあいまって、旅情をかきたてる。

しかし、じゃあ『或る「小倉日記」伝』が北九州のご当地文学として遇されているかといえば、それはほとんど感じられない。もしかしら、この作品の内在する「障害」や「差別」の問題が、大手を振って「ご当地でござい」とアピールすることをためらわされるのかもしれない。

もうひとつは作家の大きさの問題である。北九州市は松本清張を「郷土の作家」と思っているだろうか。むしろ「日本が誇る大作家」と思っているんじゃないだろうか。それを象徴するのが、冒頭でもふれた松本清張記念館である。文学館は研究拠点としての意味も持つのでハコモノ行政だとはまではいえないが、一家の記念館にしてはあまりに豪奢。しかも石垣きりぎりすに建っていて、城の遺構を壊してんじゃないかという疑惑を抱かせる。そもそも小倉城址には立派な天守閣が建っているが、これは戦後、鉄筋コンクリートで復興された天守であり、簡素なデザインだった元の天守をゴージャスに見せるため、史実を無視して破風を付け足した代物だ。加えて現在は、背後にリバーウォーク北九州という赤と黄色の醜悪な(と歴史ファンには見える)建物がそびえ立ち、歴史的な景観を台無しにしている。

それが松本清張とどう関係があるのかって? いや、私はは城も記念館も同じ方式に見えるわけ。歴史を尊重するより見てくれを優先するのが「北九州方式」じゃないのかと。歴史小説の書き手でもあった清張や、史実の採集に汗を流した「二人の田上耕作」が、この状態をどう見ているか知りたい。

なぎら健彦の東京自転車

おすすめポタリングルート14
町の達人、写真の達人、そして自転車の達人、なぎら健彦が紹介する、ひと味違った東京ガイド!



詳細なルートマップ、著者撮影の写真多数収録。 ●1575円

金原瑞人選
オールタイムベストYA
好評既刊3冊!

とむらう女
ロレッタ・エルクワース/代田亜香子訳 ●1880円

希望のいる町
ホープ
《ニューベリー賞オナー賞》副
ジョン・パウアー/中田香訳 ●1880円

私は売られてきた
《全米図書賞最終候補作》
《グスタフ・ハイネマン平和賞受賞》
*1700円
2刷

作品社
東京都千代田区飯田橋2-7-4/備税込
TEL03(3262)9753 FAX03(3262)9757

WASEDA Bungaku 増刊

早稲田文学

π

4号まで待てない！
文学への愛と希望に満ちた臨時増刊
「3・14159265358979323846264338327956288419716939937510582c9749445923c781640」号。

2010年12月発売予定！

予価●980円(税込) ※内容、価格等は変更の場合があります。

小説

革命を叫ぶ思想界の俊傑、渾身の小説！

佐々木中 「九夏前夜」(108枚)

3号と増刊「U30」で話題の新人、本領発揮。

松田青子 「もうすぐ結婚する女」(72枚)

翻訳

現代ロシア／フランスの傑作長篇、翻訳佳境。

ウラジーミル・ソローキン 「青脂」

クロード・シモン 「農耕詩」

座談会

全集完結、プロジェクト始動。高踏なる鼎談ここに。

浅田彰・松浦寿輝・渡邊守章

「ハイブリッドなマラルメ」のために

対談

書くことと読むことをめぐって。

古井由吉×佐々木中

今日マチ子×松田青子

町田康×朝吹真理子 ほか

発行・発売●早稲田文学会 お問い合わせ・ご注文は

早稲田文学編集室 TEL/FAX 03-3200-7960まで

3.14159265358979323846264338327956288419716939937510582c9749445923c781640

第24回早稲田文学新人賞募集

創刊120周年記念

委員 蓮實重彦

蓮實重彦

募集要項

●募集対象：小説(未発表のもの)。もとより「小説」の定義はいまお曖昧に放置されていますが、世界化されたその曖昧さとう向かいあうかが問われることになるでしょう。

●応募枚数：四百字換算で原稿用紙百枚程度を上限とします。勿論、これより少なくてもいい構いません。

●応募資格：国籍、年齢、性別を問いません。

●受賞作：選考委員選出によって一点を決定。

●発表：二〇一一年度下半期発行の「早稲田文学」本誌を予定。

●本賞：賞状 ほか副賞として十万円と、選考委員の著作を授与。勿論、本賞、副賞の受け取りを拒む権利は受賞者に所属します。

■応募方法

●タイトル・筆名・本名・住所・連絡先電話番号・メールアドレス(メールを使わない場合は不要)・職業・略歴を、別紙に明記して同封してください。また、作品の一枚目に、かならずタイトル(のみ)を記入してください。

●応募原稿は、以下の書式に則ってご応募ください。縦書きの場合、A4用紙(横)に原則 35字×30行で出力し、右上の角をホチキス、クリップ等で留めてください(作品の構成上必要な場合は、上記の字数・行数以外でも構いません)。横書きの場合は、A4用紙(縦)に 35字×30行で出力し、左上を同様にしてください。どちらの場合も、表紙または末尾に四百字換算の枚数を附記してください。手書きの場合は、原稿用紙ほか任意の紙に筆記し、右上の角をホチキス、クリップ等としてください。

●封筒に「新人賞係あて」と朱書のうえ、下記宛先までお送りください。

●必ず郵便にてお送りください。

●メール・FAXでの応募は受け付けておりません。応募作品は返却しませんので、手書き原稿はかならずコピーをとってそちらをお送りください。

また、選考の経過・結果についてのお問い合わせにはお答えできません。

●上記を満たさない作品は、選考の対象外となります。あらかじめご了承ください。



Waseda Bungaku Free Paper

WB vol.21

2010年11月25日発行(年4回刊)

Published by 浦野正樹

Edited by 芳川泰久 (Editor in Chief)

- 横山絢音
- 福井咲貴
- 関口拓也
- 大内啓輔
- 鶴岡眞屋子
- 近藤景亮
- 窪木竜也
- 朴文順
- 青山南
- 江中直紀
- 貝澤哉
- 十重田裕一
- 三田誠広
- 山本浩司
- 市川真人 (Concept & Direction)

Design 奥定泰之
Photo 迫川尚子 p01 加藤裕世 p12
Special thanks to 和野潤 山崎貴之
青木誠也 都丸尚史
洛西一周 杉山和世

編集・発行 早稲田文学会／早稲田文学編集室
169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-12
小池第一ビル 203
TEL/FAX 03-3200-7960
http://www.bungaku.net/wasebu/

印刷 凸版印刷株式会社
112-8531 東京都文京区水道 1-3-3
TEL 03-5840-4845 FAX 03-5840-1676
http://www.toppan.co.jp/

▼「こどもWB」をはじめから丸1年、リニューアルすることになりました。新学期というには中途半端な季節ですけれど、ご覧のとおり学校の科目になぞらえた、よつつの新連載がはじまります。次号以降にも増える予定です。「教科書の副読本」のようにできればいいなあ。ちなみに、「Final Dragon Library」の科目が「冒険」となっていて、不思議に思う人もいらっしゃるかもしれませんが、近ごろ「冒険教育」という学外の体験学習が広まりつつあるようで、そこから発想したのでした。▽8つの科目(給食含め)の時間別に、懐かしい多機能単冊と折り紙手裏剣のイラストは、今日マチ子さんによるもの。毎号、時間割のある風景が載る予定です。さらに似顔絵(?)まで描いていただいちゃい

ました。公私混同のようで恥ずかしい限りですが、併発すると、ぼくの発案ではありません！でも宝物です。▽数学の苦手な文系ばかりの編集部からの「なんか数学っぽい連載を」という無茶振りに応じてくださった円城さん、第32回野間文芸新人賞受賞、おめでとうございませう！▽今号の対談企画は、いま、仲間の小説家や批評家、編集者たちと行なっている読書会から生まれました。紙の本/電子の本を問わず、むしろむしろ味読し、語り合う会にします。イベント直前の配布となりますが、ぜひお気軽にご参加ください！(K)
▼「こどもとおとな向け」学校で配布、等々、多くの人に相談しつつ悩んできた「こども」も、ようやくカタチになってきました。皆様に感謝を。まだまだ書いてほしい方がいて、時間割も毎号変わります。▽「レシビ」頁を任せた黄色い帽子の立たせられたり、増刊「U30」に続く独自企画2弾が読書会「シミロージュ」なかに教員も複数いて時間の流れを感じ、一回り年少な奴らからの「お父さん」なる無礼な呼び名にも慣れました。数回の低会はず、どうぞ皆様お気軽に。▽表紙写真は「WB」最大の設置箇所、読者の声の多くが「あそこ読んでよ」と届くピア&カフェ「ベルク」の副店長で、新巻を振り続ける写真家・迫川尚子さんにお願ひしました。契約の変更や敬業を一方的に求められたつ「お客様にとっても、ルミネにとっても、ベルクにとっても、幸福な道はないものか」と疑わ(差)らく営業継続に向き合うベルクの日々はhttp://www.berg.jp/にて。「WB」は勿論ベルクを応援しています。▽応援機能(?)に缶バッジを抽選で5名にプレゼント。希望者は「WB」サイトまで。▽「カーリル」との連携、レシビのほかにもいろいろ進めています。近く具体的なお知らせができるかも。▽海外に手を広げた特集に手こずっている本誌「4」の前に増刊を一冊出します。詳しくは上の広告を。特集のない号は久しぶり……そのぶん一つ一つの目次力が入っています。諸々乞ご期待。(ic)

キヨウの料理 1

苦沙弥先生のための健胃料理

キヨウ ミナヲ

Kyo Minawo

カフェやバーで経験を積み重ね、料理のみならず、小説・エッセイも手がける料理人。身近な食材をつかった、気どらないのお洒落なレシピに魅了される女子多し。その毒舌は、効きすぎるスパイスとして、一部に中毒者がいるのだとか。

吾輩の主人は滅多に吾輩と顔を合せる事がない。職業は教師だそう。学校から帰ると終日書齋に導入ったがり殆んど出て来る事がない。家のものは大変な勉強家だと思つてゐる。当人も勉強家であるかの如く見せてゐる。然し実際はうちのものがいゝ様な勉強家ではない。吾輩は時々忍び足に彼の書齋を覗いて見るが、彼はよく居眠をしてゐる事がある。時々読みかけてある本の上に涎をたらしてゐる。彼は胃弱で皮膚の色が淡黄色を帯びて弾力のない不活潑な徴候をあらわしてゐる。その癖に大飯を食う。大飯を食つた後でタカジャスターゼを飲む。飲んだ後で書物をひろげる。二三ページ読むと眠くなる。涎を本の上へ垂らす。これが彼の毎夜繰り返す日課である。吾輩は猫ながら時々考える事がある。教師といふものは実に楽なものだ。人間と生れたら教師となるに限る。こんなに寐ていて勤まるものなら猫にでも出来ぬ事はないと。(夏目漱石「吾輩は猫である」)

胃袋の煮込み

【材料】

ミノ、ハチノス、にんにく、パセリ、玉ねぎ、セロリ、にんじん、トマトの水煮缶、コンソメ、塩、こしょう、オリーブ油。

「つくりかた」

野菜はみじん切りに。このときに出る野菜のくずや枝ごとのパセリでハチノスを下茹でして臭みをとります。オリーブ油でにんにくを炒め、香りがついたら、玉ねぎ、にんじん、セロリを加えます。野菜がくたつとしたら、ひとくち大に切ったミノとハチノスを加え、表面に火が通ったらトマトの水煮缶を注いでコンソメを加えて煮込みます。塩とこしょうで味を整え、仕上げにパセリをふります。



吾輩の主人である珍野苦沙弥は胃が弱くて偏屈な中学の英語教師です。胃弱のくせに大飯を喰らい胃薬を飲んでうやむやにするような教師に叱られる生徒がかわいそう。そんな苦沙弥先生には、むかしからよく言いますように目には目を、歯には歯を、胃には胃をということで、ミノ（牛の第一胃）とハチノス（第二胃）を使った胃袋料理でじょうぶな胃になってもらいましょう。そうすれば猫にも少しは尊敬されるかも。胃袋料理が胃によいかどうかは疑問ですが、まあ広い意味での医食同源。そうそう、パセリは胃にいいんです。

図書館横断検索サイト「カーリル」のレシピ機能。お好きな本を集めてレシピをつくり、いろんなひとに届けることができます。ここでは、そのなかから、WB編集部クボキがピックアップ!

姉妹のかたち



『地図 初期作品集』

太宰治
お堅い姉と無邪気な妹、そしてひとりの男。



『杏子・妻隠』

古井由吉
姉を否定しながらも、決して逃れられない妹。



『ミステリアスセッティング』

阿部和重
夢見がちな姉、シビアな妹。姉による小さな逆転劇。



『骨の学校』

盛口満
なにはともあれこの1冊。



『フライドチキンの恐竜学』

盛口満
「骨の学校」からスピンアウトしたような本。気軽に読めます。



『[新世界] 透明標本』

富田伊織
綺麗というよりは
幻想的な骨の標本写真。



姉妹関係に興味のある20代にオススメ

姉妹とは、ときに仲よく、ときに陰悪、悪口を言っているかと思えば、大事な秘密を共有している……、周りから見れば「？」かもしれませんが、実は当の本人たちにもよくわからないものなのです。今回は、二人姉妹の長女が「二人姉妹」が登場する小説をご紹介します。姉妹あるひとは一歩離れて自分たちの関係性を考えるきっかけになる、かも。

ふろさん

かばんに一冊本が入ってるだけでなんだか安心できます。学生やっています。

「骨」が好きなあなたにオススメ

フライドチキン、いくつ食べたら鶏1羽分なんだろう……？ 魚の骨をいかに綺麗に残して食べられるか？ 海辺や森で見つけたこの骨、なんの骨？

骨って怖くない。きれいだよ。

生き物が好きで、ついに骨にまで興味を持ち始めた方におすすめする本の数々。

ハリネズミさん

本業はIT関係ですが、自然や生き物、モノづくりが好きです。

「姉妹関係に興味のある20代にオススメ」って狭いよ！ ぼくにもオススメして！ きっとこのひとは悩める姉にちがいない。でも、自分に引きつけたからこそ選ぶ視点がおもしろい、プロじゃないからできる“自由な読みかた”です。

「二人姉妹が登場する」という縛りで選ばれた小説は、文豪の初期作品や老大家の出世作、中堅作家の佳作、とバラエティがある（サイトでは桐野夏生『グロテスク』も挙げられています）。姉妹の描かれかたも、「まじめで我慢強い姉／甘えたがりの無邪気な妹」もあり、「夢見がちな姉／現実的な妹」もあり。上手にまとめられたあらすじを読むだけでもちょっとたのしい。ああ、こんな姉妹に囲まれたい！ ……という願望は、ぼくのじゃなくて、これらを書いた男性作家たちのものです。

惜しいのは、作品との距離感。せっかく“極私的オススメ”を書くのだから、もっと突っ込んだコメントが読みたいな。続篇に期待しています！

「カーリル・レシピ」で本を紹介してくれる人、大募集！

→「カーリル・レシピ」に登録すると、あるテーマの本を3冊以上集めて、書籍を紹介できます。テーマ設定は自由。レシピは3ステップで作ります。

①まず、オススメしたい人とタイトルを決めて、②本を3冊以上選び、③思い入れを書き込みます！ 準備ができたらはじめましょう。

カーリル・レシピ URL <http://calil.jp/recipe>

「うちのオススメ（レシピ版）」では毎回、書かれたレシピの中から2つを選び、ご許可をいただいた上で紹介させていただきます。

レシピ名が怖いですが！ おそろおそろ見てみると、標本の作り方から、標本を調べて進化の謎を考える研究、その研究手法が派生した標本アートまで、骨、骨、骨づくし。ここに載せ切れないほどの“骨本”が紹介されています。理科と縁遠いひとには、「こんな本があるなんて！」という驚きでまずたのしい。他人の本棚を覗き見る醍醐味です。

コメントにある「フライドチキン、いくつ食べたら鶏1羽分なんだろう……？」なんて、考えたことないよ！ でも言われてみると、気になってきて、わくわくが刺激されちゃう。こっそり読んで、ご飯の時間にみんなにも聞いてみてやるのです！

ハリネズミさんは他にも、「コケを楽しむための入門3冊」「秋冬の散歩を楽しむための3冊」という、自然とか生き物の本のレシピを書いています。もっとコメントの量を増やして、内容がわかるとうれしいな。そしてレシピをもっと書いてくださいな！

本を借りるならカーリルで! <http://calil.jp/>

今日のカーリル

11月24日～26日に開催の第12回図書館総合展にブースを出します。

さんすう
しゃがい
たいいく
ぼうけん
きゅうしよく
こくご
としょ
かていか

さんすう
しゃかい
たいいく
ぼうけん
きゅうしよく
こくご
としよ
かていか

草子ブックガイド 早稲田文学編 ③



玉川重機

モーニング本誌に掲載された「草子ブックガイド」でとりあげた中島敦「山月記」これには対をなすと思われる物語がありますそれが――

山月記 猛烈に内にもろ人の物語 名人伝 強烈に外に向かう人の物語

「名人伝」です

主人公・紀昌は天下第一の弓の名人になるうとします



「自射す嫌いな精悍な面魂」



この物語には、器の小さな人が、いはい出て来ます



顔で決めたものでいいのかな?



でもほどほどが一番難しい



クモが巣をかけてもつぶらなくなる



風が馬のように大きく見えるよつになる



9年修業して山を下りた紀昌は顔つきが変わります



「人生の名人」にはなれなかつたんじゃないかなって思いました



人生、ほどほどが一番ってこと教えてくれます

特訓① 瞬(はな)きせやしのこころを潜(ひそ)み込んで眼(め)ストレスに足踏(あしふみ)板(いた)が上下(じやうげ)するのを見続け(みづ)2年

特訓② 視(み)ることを字(じ)べ風(かぜ)を窓(まど)にさびて睨(にら)み専(せん)らす事(こと)3年

紀昌は大行山脈(だいこうさんみやく)のてっぺんに向かい老師(らうし)に弟子入り(でしやうい)します

老師(らうし)は「射(や)の射(や)でなく不射(ふしゃ)の射(や)こそ真(ま)の芸道(げんどう)と素手(すて)の見えない弓(ゆみ)と矢(や)で鷹(たか)を打ち落と(うちお)します

弓(ゆみ)を持(も)とうとしない紀昌(きちやう)訳(わけ)を尋(たず)ねると

「あいつやだな」と思(おも)って奥義(おくぎ)を極(た)めたかつたら甘蝮(かんぼ)老師(らうし)に会(あ)いに行(い)けと言(い)い

羊(ひつ)のよう(よう)な目(め)おぼやかな目(め)

至(いた)るは為(な)す無(な)く至(いた)るは言(こと)を去(さ)り、至(いた)るは射(や)ることなし

悟(さと)ります

その道具(たぐ)こそ紀昌(きちやう)が人生(じんせい)を賭(か)けたはずの弓(ゆみ)でした

夜(よ)雲(くも)に乗(の)り、紀昌(きちやう)が古(いにしへ)の名人(めいじん)二人(ふたり)と腕(うで)比べ(くら)べをして放(はな)つた矢(や)はオリオンとシリウスの間(ま)に消(き)えたと言(い)う(伝説(でんせつ))

「山月記」をとりあげた「草子ブックガイド」本編は、11月18日発売の「モーニング」本誌No.51に、大増量37Pの掲載。お見逃しなく!! 草子×WBコラボページもあるよ!

げきからぶんがくにゆうもん

Mochizuki Shunjun

68年生。主として国内外の小説・演劇について「朝日新聞」「ポンツーン」等で望月旬義の書評を手がける。著書に『日本文学にみる純愛百選 zero degree of 110 love sentences』（共著）。超がつくほどの辛い物好きで、職場にはカレー部があるとのウワサも。

今から70年前に子役としてデビューした俳優の長門裕之さんって、知ってるかな？ きみたちのお父さんやお母さんの世代の大人なら、「サザンオールスターズの桑田佳祐さんに似てる人」として、きっと知ってるはずだから聞いてみて。そしてまた、うまく会話のキャッチボールが成立したなら、次のようにつぶやいてみて。

「サギ師がナガトヒロユキなら、愚や！」

これは、内陸県（日本列島のなかで海に面してない県）を覚えるための語呂合わせ。つまり、「サ=埼玉、ギ=岐阜、師が=滋賀、ナガ=長野、ト=栃木、ヒロユキは付け足し、なら=奈良、愚=群馬、や=山梨」の8県ね。解説ついでに申し添えておこなれば、長門さんは、最近の映画では『旭山動物園物語 ペンギンが空をとぶ』に出演しているよ。

というわけで、今回ご紹介する本は、森見登美彦氏による『ペンギン・ハイウェイ』。小学4年生男子の「自由研究」と初恋の日々が、サイエンス・キッズの目線で語られてゆく、ひたむき&せつないSFファンタジー小説だ。

著者はこれまで、京都を舞台に、おなかがよくゆるく笑いえる青春小説やゾッとするくらい怖い怪談を書いている。しかしながら本書は、古都から離れ、ニュータウンが舞台。語り手が（京都のヘタレ大学生ではなく）小学生ということもあり、著者の新境地とうたわれている記念すべき作品だ。SFの巨匠スタニスワフ・レムの『ソラリスの陽のもとに』や、ルイス・キャロルの児童文学『鏡の国のアリス』のモチーフもそれぞれ、じつにうまく取り入れられている。

物語は、小学校への通学路に、ある日突然ペンギンたちが出没するところから始まる。よちよち歩きまわる「飛べない鳥たち」の群れは、どこからやってくるのか？ どうやら、〈ぼく〉のあこがれの、歯科医院のお姉さんが関係しているらしいのだけど。解明をすすめてゆくうち、クラスメイトの天才少女からは、街はずれの森をぬけた草原に浮かんでいる〈海〉の研究へと誘われるようになり……。

主人公のアオヤマ君は小学4年生。〈ぼくはたいへん頭が良く、しかも努力をおこたらずに勉強するのである〉と自称するだけあって、彼はノートに毎日の発見を記録している。本もたくさん読むし、街を探検して秘密地図を作っている。まだ海は見たことない。レゴブロックで宇宙ステーションを作ったりするのが趣味。チェスもたしなむ。いつも冷静沈着で、いじめっ子にも物怖じしない。その秘訣はというと——「怒りそうになったら、おっぱいのことを考えるといいよ。そうすると心がたいへん平和になるんだ」とのこと。

ちょっと生意気なキャラだけど、話せばわかるタイプだ。口は堅く、友だち思いでもある。甘美なイメージによって、四角いこころも丸くすることができる幸せ者。

アオヤマ君が暮らす郊外の街には、〈草をゆらすひんやりとした風によって、どこかの台所からおいしそうなカレーの匂いがただよって〉くるという描写はあるものの、辛そうな料理は出てこない。むしろ彼は、脳にエネルギーを補充するために、チョコレートなどの甘いお菓子で糖分を摂取する。大好物は、家の近所の洋菓子店で売っている〈直径十センチメートルぐらいの大きさで、それはもうまんまるで、信じられないぐらいやわらかい〉という「おっぱいケーキ」。

とことん甘党のアオヤマ君だけど、立派な大人になる心得として、砂糖を少しずつ減らしながらコーヒーを飲む訓練をしている姿は健気だ。そんな彼が、涙をこらえ、あたたかいブラックコーヒーを飲みほす場面は、グッと胸に迫る。

苦味とともに記憶される「世界の果て」。

乳歯をぐらぐらさせながらも大人への階段をのぼっていく少年の、ふしぎな現象とその本質を探究しようとする一途な思いにつらぬかれた、哲学的な味わいも楽しめる一冊だ。

ちなみに「ペンギン・ハイウェイ」とは、ペンギンたちが海から陸に上がるときに決まってたどるルートのこと。

はたして、高速道路のサービスエリアなどでお土産として売られている「おっぱいプリン」が、アオヤマ君としてOKなのかどうかについては気になるところ。♪

そのノウハクを書いた本。ユニークな経営術がわかる。個人店が生き残るには？

『新宿駅最後、小さなお店、ベルク』

定価●1,600円＋税
ISBN:978-4-86020-277-4
ブルース・インターアクションズ

ロングセラー8刷！

新宿駅最後の小さなお店ベルク 店長 井野朋也

究極の大衆飲食店はこうしてできた！



定価●1,600円＋税
ISBN:978-4-86020-402-0
ブルース・インターアクションズ
http://bls-act.co.jp/

●ベルクから生まれた本

食の職 副店長 迫川尚子

小さなお店、ベルクの発想

愛される「味」「仕事」を生み出す秘訣とは？

食と仕事についての美味しい本。ベルク第2弾は職人VS経営者！

コーヒー ¥210
生ビール ¥315

Beer & Cafe
BERG
ベルク

☎ 03-3226-1288
http://www.berg.jp
↑ベルク通信、全バックナンバーがご覧いただけます。

JR新宿駅東口改札出ですぐ
(ルミネエストB1)

WB常設。コーヒーのお供に。

さんすう
しゃがい
たいいく
ぼうけん
きゅうしよく
こくこ
としよ
かていか

Final Dragon Library World 5

ファイナルドラゴンライブラリー

🍷 ぼくは勇者に向いてない『新興宗教オモイデ教』編

ぼくは本を読んでいる。少女の悲鳴が聞こえたけれど、手元に本が出現したら読まなくちゃいけないのだ。

この世界はそういうルールようだ。これだけ繰り返されたら、さすがのぼくにもわかってきた。夢中になって本を読んでいるときは、外の世界の時間が止まる。そして、ぼくはめっぽうおもしろい本を読む。

『新興宗教オモイデ教』というヘンなタイトルの本だ。主人公の僕は、パツとしない奴だ。

“友達はいない。だから休み時間は人気のない旧校舎の水飲み場で過ごす。ずっと水道の水で手を洗って過ごす。何も考えないようにして、ただ水流に手をかざしていると、不思議と落ちつく。”

友達なんかいなくてもいいよなあと、ぼくも思う。無理して、友達の言うことにあわせるのなんて、まっぴらごめんだ。群れる奴は群れてればいい、バカばっかだ。

“でも、なつみさんだけは違う”と僕は思う。“きっと阿鼻叫喚の最中にも、少し離れた所にふわりといて、体育座りをしながら、「なんだか困ったことになっちゃったよ」と小首をかしげているような、そういう気がする。”

ところが、なつみさんは、俗物にしか思えない先生と恋に落ち、捨てられ、精神が崩壊して、そのあげく救いを求めて新興宗教オモイデ教に入信してしまう。つまらない人間を誘流メグマ祈呪術で発狂させてしまう術を使う。そんな怪しげな宗教だ。なつみさんに引き寄せられるようにして、僕も入信してしまう。そこからは怒濤だ。精神殺戮大戦を繰り広げる凄い展開に突入する。

“心の中にいつもはっきりせんもんがいて、そいつがあばれとるやろ、外へ出せえ、外へ出せえ言うて、赤子みたいに腹の内側蹴っとるやろ。”



米光一成 Yonemitsu Kazunari

64年生。名作落ちゲー「ぶよぶよ」はじめ多数のゲームをつくるほか、小説をゲーム化しようとする『日本文学ふいんき語り』や、『仕事を100倍楽しくするプロジェクト攻略本』等、ゲームという視点から幅広い活動を見せる。
<http://blog.lv99.com/>

ナカシマカズユキ Nakashima Kazuyuki

67年生。作品によりまったく異なるテイストに描き分けるイラストレーター。以下のURLにはムチムチプリプリしたキャラクターたちが勢ぞろい。
<http://www.nk-w.jp/>

どこへ向かって放てばよいのかまだ分からない外へ出せというパワーを自分の腹の中に感じながら読んだ。読みながら、ぼくは、この世界で何をすればいいのか気づいた。

“ボクは今想像もつかん遠いところにおるよ、元気や”。

ぼくも、今想像もつかない場所にいる。白い少女に引っ張られて、突然出てきた穴に落ちてデタラメな世界にきた。本を読むと時間が止まる。最後のシーンを読み終われば、また時間が進みはじめる。悲鳴。少女の悲鳴の方向に、ぼくは走る。

瞬時に状況を把握する。石の壁。ここは塔のてっぺん。少女は外壁の上に立っている。そのまま落ちてしまいそうに頼りなく立っている。風に吹かれて白い服がなびく。悲鳴はまだ聞こえない。これから聞こえるだろう悲鳴を、ぼくは聞いたのだ。

少女に向かって、ぼくは走る。

To be continued.

さんすう

しゃかい

たいいく

ぼうけん

きゅうしよく

こくご

としよ

かていか

わたしたちの体育

青木 淳悟

Aoki Jungo

79年生。前衛的な作風でディープな読者の多い新進小説家。直近の単行本「このあいだ東京でね」は東京という「都市」が主役の奇妙な話。「早稲田文学」誌でも活躍中……なれどこのところ作品をあまり見ないかと思っていたら……その秘密は本編冒頭にて

第1回 一組の体育

[PR] このたび脱稿いたしました長篇は高校のクラスが舞台。その小説のノリでこれを書いております。高校に詳しい人、青木淳悟です（新作は近日雑誌発表予定!）。

一日の時間割のなかで体育の授業が「どこに入るか」は、一年一組の生徒たちにとって特に重要らしかった。以下、このことについて詳しく見ていくことにしよう。

二コマ連続授業の場合、一二限か三四限か五六限か（体育設備使用時間の割り振りから、二三限目の連続授業というのは想定しがたい）によって、着替えのタイミングや環境が大きく変わった。五六限の授業では、昼休みにジャージに着替えると、「終礼の会はちゃんと制服で受けるように。」などと担任が言い出さないかぎり、放課後の掃除でも部活動でもそのままのままでいることができた。三四限後が昼休みなのも制服に着替える面では楽なのであった。かたや二限後が「二十分休み」だとか「業間休み」でないことを考えると、一二限の体育のあとはすぐに帰って着替えなければならなかった。

月曜日の一二限が体育となり、これが「つまらない」とは、多くのクラスメートが早くも実感しているところだった。男女別に一組と二組の合同授業ということで、隣の一年二組の生徒にも同様の思いがあるに違いなかった。時間割がどうにも動かしがたいものとしてそこ（教室の黒板に向かって左側）にあり、誰に文句を言っても始まらないと、そもそも自分が高校に入学して一組に配置されたことを薄っすらひがんでみるくらいだった。一組が入学試験の成績上位者を集めた「特進クラス」だという噂はたちまち嘘であることが判明して自尊心を傷つけられていたし、一組に「なった」ことに対してあまりいい感情は抱きにくかった。

入学したてのこの時期、時間割の編成それ自体には特に目を向けず、クラス編成における学校側の意図や判断に疑いを持ちやすいということなのだが、その時間割が教務主任一人の手で人為的に作られている事実に気がつく生徒はいなかった。教務主任が前年度の春休み中にこの作業を開始するにあたって、「わかりやすいように、まずは合同授業の体育を」と、エクセルの表に真っ先に「1-1」「体」との文字を入力していた（その詳しい作業内容や使用ソフトは謎である）。これでも過剰なくらい生徒思ひだと言われているベテラン教諭だった。

女子には女の、男子には男の体育教師が教えた。生徒たちはせっかく隣の組同士の男女別合同授業であるにも関わらず、男女同室で着替えを行った。しかしこれを恥ずかしいと思う者こそが本当は恥ずかしかった。ともあれ担任が朝礼の会を終えてその場を去ると、教室では体育係の男女二名がいち早く着替えを済ませ、いわゆる「貴重品預かり袋」を

教卓に載せ、

「貴重品出してー。」

と声を張り上げていた。中学では財布の持ち込みが禁じられている学校も多く（誘拐された時の連絡用に十円玉だけ所持を許している中学がある、という噂が……）、こうした瞬間に高校生になったという実感が湧いた。中学生持ちの、ナイロン製でマジックテープ式の財布となると、さすがに一つ二つを数えるばかりだった。

月曜日のことで、前の週に持ち帰って母親に洗わせたジャージを忘れる事件はたびたび起こった。しかも一限から始まるため、他クラスの友達から借りるなどのリカバリー措置が講じにくいところがあった。そして何より致命的なのは男子が家で短パンを履き忘れてくることだった。学年色の青い短パンは下着のトラックスと大差ないとはいえ、ズボンからズボンへの履き替えは女子に比べて大きく不利と言わざるを得なかった。女子は当然ながらハーフパンツもジャージズボンもスカートのまま履くことができた。

体育では授業内容に関して、事前に詳細な年間計画が示されることはまずなかった。本当になかったのか、あるいは単に聞いてなかっただけかもしれないが、少なくとも文書の形になったためには一度もなかった。初回のオリエンテーションでは一学期に何と何をやる、うまくすれば何もやる種目名がいくつか挙げられた。ところがそれが二学期ともなるとだいぶ中身があいまいになり、あれをやるかもしれないし、これをやるかもしれないし「すべては未定だ!」ということが話されるに留まっていた（他教科でもあり得る事態。しかも当初の大雑把な計画に遅れが出ると、「早足で」とか「飛ばす」とか「自分でやっておけ」との指示が飛び始末なのだ）。

情報を小出しにするのは意図があつてのことなのかどうか、生徒たちは俄然体育のことが気になり、今後のスケジュールに関して興味をそそられ続けた。そこから風説が生まれることもしばしばであった。ワールドカップ開催年だから二学期はサッカーをやるのではないかとどこの高校でもよく聞かれるところであり、さらにクラスごとにAチームBチームに分かれ四チーム対抗のリーグ戦で勝ち点を競うのだとか、FIFAの公式球まで使うのだとかいう話が持ち上がった。

しかしよく考えたら二学期には重要行事の体育祭があり、蓋を開けてみればその行進練習で初めて男女共修が実現することになっていた（恒例の「エッサッサと組体操」が日体大の不祥事を遠因として中止される代わりにパラパラを踊るので女子と一緒に創作ダンスの授業になるとか、早大の不祥事があったからそれはないとかいう噂も。というかそんな事件知ってる?）。そして三学期のマラソン大会（男子7km、女子4km）に向けた練習がいつの時点から始まるか、それが生徒たちにとって一番の関心事かもしれない。♫

設置協力 WBは、全国44都道府県+海外5都市、約500カ所で配布中! 場所募集

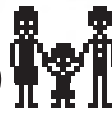
日本語による文学・哲学・芸術表現の普及をめざすフリーペーパー「WB」では、主旨に賛同・応援して下さる個人や企業の皆様からの広告出稿や配布物提供等によるご協力を募っています。関心をお持ちの方は誌編集室までご連絡ください。▼お申込フォームは <http://www.bungaku.net/waseibun/> より。▼お問い合わせ先 MAIL : wbinfo@bungaku.net TEL : 03-3200-7960

さんすう
しゃかい
たいい
ぼうけん
きゅうしゅう
こくご
としょ
かてい

〈社会〉の思考

大澤真幸

Ohsawa Masachi



『(自由)の条件』や『ナショナリズムの由来』など、社会構造の観察と本源的理性への思考を総合する思考を繰り出し続ける社会学者であり思想家。同時にスポーツや文学の批評も手がけるなど、フィールドを横断した活躍をみせている。毎月多彩なゲストを迎える月刊個人誌『THINKING O』を左右社より刊行中。

第1回 「あなたはパーティのメンバーではない」

アメリカ中間選挙（上院・下院議員）におけるオバマ民主党の歴史的な大敗は、「ティーパーティ」と呼ばれる保守派の運動の拡がりに起因していると伝えられている。この運動の独特の名前は、むしろ、アメリカ独立につながったボストン・ティーパーティに由来している。ボストン事件のスローガン「代表なくして課税なし」に託して、この度のティーパーティが目指しているのは、税金の再分配の規模や範囲を縮小することにある。ここでわれわれは、彼らの主張内容以上に「ティーパーティ」の語感に留意しなくてはならない。ここに、21世紀の最初の10年の歴史的な位置が、微かな反響を及ぼしているからである。政党をも意味することがある「パーティ」とは、本来、「部分」を意味しており、ここから「招待された特定の人たちの集会」といった語義も派生してくる。

この10年間の歴史上の位置を判断するためには、さらにその前の10年のことを考慮しなくてはならない。その前の10年、つまり20世紀最後の10年という期間の幕開けには、一つの大きな壁の崩壊がある。1989年11月9日のベルリンの壁の崩壊である。この事件を引き金にして、20世紀の初頭から続いていた冷戦が終結した。これを見て、アメリカの政治哲学者フランシス・フクヤマは、ヘーゲルの論を引きながら、終わったのは冷戦（だけ）ではなく、歴史そのものである、と論じ、大きな話題を呼んだ。

世界で最も厚い壁すら壊れ、開かれたのだから、これからは、実質的な壁のない時代がやってくるはずだ。当時、そのように考えられた。歴史を動かす原動力は、対立にあった。フクヤマが唱えた「歴史の終わり」とは、そのような意味での本質的な対立が消え去った状態を指している。社会主義体制が失敗に終わり、自由民主主義が最後の勝者となったところで、対立は消え、その象徴だった壁も崩壊した、というわけである。

歴史の終わりは、一種のユートピアである。もう少し厳密に言えば、メタ・ユートピアである。「歴史の終わり」それ自体には、目指すべき社会状態についてのいかなる内容もないが、しかし、その内部では、相互に深い葛藤をもたず、どのようなユートピアを提起することも許されているからである。

しかし、21世紀に入った途端に、「歴史の終わり」そのものが終わった。歴史の終わりもまた、実は一つの歴史的な期間、しかも比較的短い期間に過ぎなかったことを、われわれは皆、自覚せざるをえなくなったのだ。終わりの終わりを告知した出来事は、皮肉な偶然と言うべきだが、「終わり」と呼ばれた期間の始まりが告知された11月9日と、日と月の数字を入れ替えた日に、つまり9月11日に

生起した。言うまでもなく、2001年の同時多発テロが、それである。

9・11テロは、いかなる意味で終わりの終わりだったのか。この事件によって、メタ・ユートピアという枠組みが機能しなくなったのである。人々は、自由と民主主義だけでは何か足りない、と思い始めたのだ。自由と民主主義のみでは、それらを犯そうとする敵を効果的に排除することができない、というわけである。そのために取られた処置がまたしても逆説的である。自由と民主主義を守るために、自由と民主主義そのものが制限されたのだ。自由や人権の侵害を含むセキュリティ上の配慮の極端な増大や、防衛の名のもとでなされた先制攻撃的な戦争などが、そうした処置の例である。

その結果の一つが、無数の壁の出現である。さまざまな場所に大小の壁が次々と現れ出たのだ。たとえば、イスラエルは、ヨルダン川西岸に分離壁を建築した。あるいは、EUの周囲にも壁が張り巡らされた。アメリカとメキシコの間にも壁がある。壁は、これらのように、国境線に沿ったものばかりではない。一つの国家の中にも、新しい壁が生まれている。その代表は、——とりわけアメリカの（準）郊外に造られた——何万ものゲーテッド・コミュニティである。

壁は物理的なものだけではない。心理的であったり、象徴的であったりする壁も次々と現れてきている。たとえば、ある新聞が「メンバー限定現象」と名づけた流行がある。メンバー限定現象とは、プライベート・バンキングとか、あるいは限定された人にもみ開かれているクリニックであるとか、裕福な家庭で私的に開催されるコンサートやショーなど、特定のメンバーだけが参加できる集会やサービスの流行を指している。アメリカやヨーロッパでは、このような集会やサービスが蔓延しているという。そして、「ティーパーティ」こそ、究極のメンバー限定現象である。あなた方は、茶会には招かれていない、というわけである。

さらに、反省してみれば、いわゆる「オタク」のような現象も、すでにメンバー限定現象である。そこでは、非常に特殊な「趣味」が、参入の資格を制限し、一種の心理的な壁として機能するからである。

要するに、一つの決定的な壁が壊れた後に、あらゆるところに壁が出現する時代がやってきたのだ。よく見れば、壁は、今でも不断に崩壊し、それと同時に増殖している。グローバルな人や経済の動きは、一種の壁の崩壊である。それ以上に、インターネットの中で増殖していくつながり、たとえばSNSやツイッターの連鎖もまた、壁の崩壊だ。しかし、それらを相殺するかのように、さまざまなタイプの壁が至る所に建設されている。♪

短編競争「変身」
入間人間 評論 ネットワーク下の表現
木堂権 福嶋亮大 坂上秋成
間宮緑 伊藤亜紗 渡邊大輔
小林里々子 評論 コミュニティの行方
佐藤弘 西田亮介
エッセイ 内沼晋太郎
松田青子
川崎昌平
表紙マンガ 今日マチ子
発行・発売 ● 早稲田文学会

WSJEDA bungaku
早稲田文学
3

創作 村田沙耶香 中村文則 墨谷涉
小野正嗣 松田青子 木下古栗
翻訳 ウラジーミル・ソローキン「青脂」
クロード・シモン「農耕詩」
第23回早稲田文学新人賞発表
選考 東浩紀 受賞作 青沼静哉
特集 ● コドモの文学
ダブル対談 重松清×金原瑞人
×西原理恵子
斎藤環 斎藤美奈子 伊藤剛
千野帽子 伊藤比呂美
評論 桂秀美 武田将明 石川義正
古谷利裕 大杉重男 神山修一
ふるくDVD 聖家族 voice edition
古川日出男 ほか

◎ 好評発売中 ◎

定価 ● 980円(税込)

定価 ● 1800円(税込)

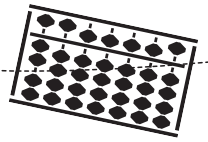
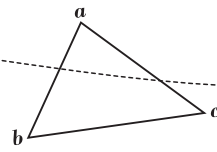
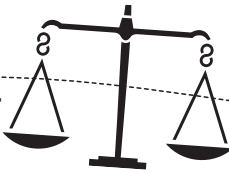
増刊 U30
2010年代を担う新しい才能が集結!

前号から1年、さらにボリュームアップした本誌「早稲田文学」がついに登場!

さんすう
しゃがい
たいいく
ぼうけん
きゅうしよく
こくこ
としよ
かていか

数学への長い道

第1回 線形性



円城塔
EnJoe Toh

72年生。大学で物理を研究していた理系作家。あなたの身近な後藤さんから銀河の彼方の帝国まで、あらゆるものを語ってみせる“大ぼら吹き”。作中にちりばめられた仕掛けがいつも読者を途方にくれさせる。『烏有此譚（うゆうしたん）』で、第32回野間文芸新人賞を受賞。

数学っぽいお話をさせていただきます。

なんで数学者でもないお前がという話なのですが、わたしにもよくわかりません。数学者の言うことはわからないので、もう少ししい加減な奴を呼べということなのかどうか——。

連載ということですから、向こう何回かのおつきあいを願います。調子は様子を見つつ整えるとして、まず連載というものについて考えてみることにしましょう。

連載とは何かというのに、途切れ途切れに何かを書き続けていくことです。多分続ける理由があってそうなります。まあ一度では書ききれない。何かを言うにはある程度の長さが必要であり、たとえば「あ」一文字では相手が何を言いたいのかちょっとわからないところがあります。

そうして続いていく以上、多く書いた方がよいのである、ということになりそうですが、長さや内容の関係というのが気になるわけです。

二倍書けば二倍面白いものになるのか。

この連載一回目で、あ、ちょっと数学っぽいなと思って頂けたとして、二回目になると倍、数学っぽく思えたりするのかということですが。

そういうこともなからうなと思うわけですが、小説などを書いていきますとそこいらあたりに何かの見極めが必要となります。小説の長さや、小説を書くのにかけた時間は、面白さに比例するのか、という素朴な問いです。

倍にすれば倍になる、三倍にすれば三倍になる。いわゆる比例というやつです。線形性とも呼ばれています。もしかして小耳に挟んだこともあるかも知れない、非線形という用語はその字の通り、線形ではないものみんなを指します。

なぜ線形、リニア、と呼ばれるかと言いますと、まあ真っ直ぐな感じがするからで、グラフに書くと一直線になったりします。あなたの今いる場所と、東へ二キロ、北へ二キロ進んだ地点と、東へ二キロ、北へ四キロ進んだ地点の三つは、直線状に並んでいます。

ふうん、って感じですが、線形性とか大仰な名前がついている以上、便利どころが多少あります。重ね合わせが効いたりします。つまりは、

$$f(a+b)=f(a)+f(b),$$

が成り立ちます。

もうなんだかわからない、というところ、形だけを眺めて下さい。f()というのは何かを食べて吐き出す関で、aとbは何か足したりできるものです。aとbを足してから食べても、aを食べて出てきたものと、bを食べて出てきたものを足しても同じ、ということをお願いだけです。どうせ腹の中で一緒になるんだから別々に食べても同じだという男らしい式とも言えます。

fを読書と読みかえて、aっていう本とbっていう本を続けて読んだ感想文と、読み終えるごとに書いた感想文を束ねたものが同じになるとかそんなことを言っています。

そんな単純な世界であれば、そりゃ色々やりやすかろうと思えるわけでその通りです。

もしも小説の完成度なるものが作業時間に対して線形ならば、手を入れれば入れるほど、素晴らしいものになっていくわけで、やらない手はありません。そうは問屋がおろさないのでものを書くという行為の面白いところであって、はなから見込みのないものをぐだぐだいじり続けても、滅多なことでは大したものはいきません。

故に打ち切るタイミングを見定める能力が必要となり、その秘訣を知りたいものだと思うのですが、これがなかなか不明です。なんとなく完成度の頭打ちが見えたあたりでやめてしまっただけというのですが、公言するとなぜか白い目で見られたりします。

そもそも完成度って数値化できるものだったっけ、とか、どこかの単語を置き換えることにより超傑作と超駄作が切り替わったりするのが小説のきわどさというものではなかったか等、様々問題もあるわけですが。

つまり、この一回目で何を言おうとするかということ、先行きなどは見えないのだと、当たり前のところに落ち着きます。小説を書く作業とは非線形だ——線形以外は非線形なので——と、何も言っていないわけですが、じゃあどんな形をしているのかとか考えてみるのはいかがでしょうか。

最後に、ちょっと逆転を試みましょう。線形な小説があるとしたらどんな形をしているのかとか。

個々の登場人物たちのお話を連結した小説と、登場人物たちを連結してお話にした小説とが、同じようになる小説とか。

登場人物たちの間に何の交流もない前衛小説になってしまう公算が高いわけですが、今、この文章とあなたの間に目ぼしい相互作用が生じているのかということ——。

めざましテレビ(フジテレビ系)ほか
TV全国書店からも反響続々!!

伊集院静
小川洋子
推薦

63歳で第二子、60歳で第三子、
何よりも重責の家族の繋がり、
赤裸裸で、壮大な家族の物語。

杉田成道著 ◆定価1,700円(税込)

願わくは、
鳩のごとくに

「最後の忠臣蔵」監督、「北の国から」演出家
初の私小説

超世代文芸クオリティマガジン エンタクシーバックナンバー ●書店でご注文いただけます。各号の内容等は、本誌、または扶桑社ホームページでご確認ください。

en-taxi

ODAJBA MOOK No.31 WINTER 2011

リプロ池袋 × en-taxi
en-taxi フェア &
「エンタク学校」開講!

リプロ池袋本店1F・人文書フロアで
en-taxi フェア&トークショーを開催
【エンタク学校 スケジュール】
12月11日(土) 平松洋子 × 坪内祐三
1月15日(土) 杉村春彦 × 坪内祐三
1月29日(土) ホンタク × 福田和也
ほか 3月まで実施。
◆18時開演 ◆入場料:1,000円
【お問合せ先】
リプロ池袋本店 ☎03-5949-2910

責任編集
坪内祐三
福田和也
リリー・フランク

好評
発売中

近田春夫 × 角川春樹
金持ちのみなさん
お待たせしました
岡田修郎 × 福田和也

藤原敬之
小説
大竹聡 × 佐々木 大鶴舞
高平哲郎 × 樋口毅宏 山崎まどか
南博 × 立川談志 × ホンタク
津村記久子 × 加藤陽子 × 佐藤優

エンタクシー 31号
A5判 定価860円(税込)

梅佳代 / 上原善広 / 平山夢明 / 山下陽光
ウオークオンザワイルドサイド
東京の辺りを歩く

目黒考二 / 平松洋子 / 浅生ハルミン
荻原魚雷 / 滝本誠 / 内堀弘 / 直枝政広
芝山幹郎 / 亀和田武 / 中野翠

特集
忘れられた
ひととびと

「特集」
忘れられた
ひととびと

目黒考二 / 平松洋子 / 浅生ハルミン
荻原魚雷 / 滝本誠 / 内堀弘 / 直枝政広
芝山幹郎 / 亀和田武 / 中野翠

扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1-15-11 http://www.fusosha.co.jp ©お問合せ先 販売局 ☎03-5403-8859 (月~金10:00~17:00) 全国の書店でお求めください。

さんすう

しゃがい

たいいく

ぼうけん

きゅうしよく

こくご

としよ

かていか

こども

WB

¥0

